

山下 文雄 (久留米大)

待合室での観察から、子供の要求に対する母親の反応のあり方に、かなりの違いがあることに気づいている人は多い。

即ち①子供が何をしても無関心な母親、②子供の母親への要求とは無関係に、自分の要求を押しつける母親、③子供の要求に適切に反応している母親などがそれである。

我々はまず子供の要求に適切に反応できることが、子供に満足感をもたらす、ひいてはそれが子供の適応性を増大させることになるとの仮説に立った。

子供の要求に適切に反応できるということは、子供の要求が敏感に母親にキャッチできることが前提条件になる。

そこで我々は、母親の感受性を操作的に、泣き声を通して乳児の要求を弁別できる力と考え、感受性の度合と乳児期の子供の適応のあり方をみた¹⁾。

結果として、敏感な母親の子供は適応性もあるといえるが、必ずしもそうともいえないことがわかった。つまり敏感な母親も大別して二通りある。敏感で神経質な母親は子供の精神的適応の発達にとって、好ましくないことも明らかになった。

情緒的に健全な発達をしていない子供の生活史をみてみると、人見知りや後追いがはっきりしない子供が多いように思われる。

そこでどのような母子関係を結んだとき、人見知り、後追いがはっきりみられるのか。また、人見知り、後追いがみられた子供とみられなかった子供の以後の社会的適応に差異があるかどうかをみた²⁾。

その結果、人見知り、後追いが顕著に現われ消失する群は、「現われぬ」「現われるが長びく」群に比べ、健全な精神適応状態を示す。この場合しっかりと母性同一性を確立している母親群の子供に、人見知り、後追いが顕著に現われ消失することがわかった。これは彼女達が子供と身体接触をより多くもつ母子関係をもつからである。

では母性同一性は、どのようなプロセスをたど

って確立されていくのだろうか。また母性同一性とか、そこから現出する親子の親密度は、どのような方法で測定されるのであろうか。

母性同一性が確立していることが、子供の精神発達にとって必要なことは確かかもしれない。子供の精神症状は、親子関係の反映かもしれない。そうだとすると多くの臨床家にとっては母性同一性の有無の問題、母子関係の好ましさを明らかにする手段をもたないし、時間的余裕もない。そこで簡単にそれを見る方法はないか、全く明らかにすることはできなくても、どこを主体的に眺めたらよいかの問題になる。

このあたりをみるためにいくつかの心理テスト(投影法)を工夫した。母子関係の親密度の測定は、従来より試みられているパーソナルスペース・テストを改訂して施行した³⁾。その結果、母子関係が親密(母子の心理的距離)なもの程テストにあらわれる物理的距離も近い傾向がみられた。

また母性同一性もしくは、母性意識の出現・変容をみるため妊娠時から出産後の変化を、自己像画、ロールシャッハテスト、Body Buffer Zone Test⁶⁾、SCT などととらえようとした。さらに同一性に影響する要因としての家庭内の対人関係、妊婦のパーソナリティーについて調査した。

その結果母性同一性をもった妊婦は、自己の姿をありのままにとらえることができる(自己知覚が歪曲しない)。夫のあり方を素直に認知でき、結婚幸福度が高い。夫と円満で母性同一性の高い母親は、養育態度も好ましい状態を示す。またこのような母親のあり方は、彼女の母親のあり方とも関係が深いようである、などのことが明らかになった。

今までの研究から今後、以下のような問題を明らかにする必要がある。

①母性同一性獲得に影響する要因を明らかにするための体系的な研究。そのため母性同一性障害の母親の研究(病理的研究法の導入)が必要。

②乳幼児期の母子関係の在り方が、その後の子供の適応をどのように規定するか**の縦断的研究。**

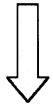
③同一性測定尺度の妥当性について、我々が工夫したテストの臨床場面での**実際的な検討。**

④母性同一性障害をもつ母親に対し、どのような働きかけを行なうか、具体的な方法 (behaviour modification or personal change)

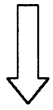
の検討⁵⁾。

⑤乳幼児期のアタッチメント形成に関する研究として、乳幼児の気質と母子間の personal space 及びその発展的段階としての鏡像発達段階との関連の調査、研究。

などが今後の課題となる。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



待合室での観察から,子供の要求に対する母親の反応のあり方に,かなりの違いがあることに気づいている人は多い。

即ち 子供が何をしても無関心な母親, 子供の母親への要求とは無関係に,自分の要求を押しつける母親, 子供の要求に適切に反応している母親などがそれである。

我々はまず子供の要求に適切に反応できることが,子供に満足感をもたらし,ひいてはそれが子供の適応性を増大させることになるとの仮説に立った。